

【刊夕日四十二月二十】



休日曜大祭日 一月二日 一月五日 一月八日 一月十一日 一月十四日 一月十七日 一月二十日 一月廿三日 一月廿六日 一月廿九日

凡終観記

町會と云へば直ちに一と聞
有が聯想される近來の半町
會、確かに一種の興味では
あるが何時もながら大人満
員の傍聴者諸氏よ木戸鏡入
らの芝居見物と心得ては
ならぬ一ヶ年數百金の歳費
が出て居るのだ

滞納の爲め遣切れず 悲鳴を上げた川前村

深刻なる不景氣で最も悲惨
な苦境にあるものは農村で
石城地方には年迫る此の暗
夜塲吏員や學校職員に俸給
不拂ひが重なり諸物價の暴
落が俸給生活者に
△會計年度の金庫閉鎖は
昭和六年三月三十一日な
り然るに三月三十一日な
り於て一萬四千九百一十
十四圓の収入を見るのみ
之れに對して一萬五千九
百二十八圓六十五圓の支
出をせねばならぬ此點深
く注目して下さい

大部分 滞納から夏 季休暇に支障を及ぼす

李休暇に支障を及ぼす
のものは、三を數へると
遣り切れなくなつた同郡川
前村の如きは歳入出収支明
細書を謄寫刷に付し左記の
苦境を村民に訴へ佐藤
村長以下いま大重
となつて納税を督促中であ
るが明年三月の會計年度ま
でには到底所定の運び覺束
なく先行きどうなることと
あらうと悲觀されて居る

少年消防隊の 發團式

△村財政の收支状況を公
開して哀願す行政機關の
運轉は(中略)村を愛し納
税を待つことによつて能
平第一小學校高等科男生二
名を以て組織された少年
消防隊は二十三日午前十時
向校に於て發團式を擧げ非
上消防組頭その他の祝辭あ
り器械操縦その少年達の昇
進な訓練があつた

日基督教會の クリスマス

少年少女に待たれる平南町
の日本基督教會クリスマス
は明廿五日午後一時から禮
拜堂其他の式が終えて午
後六時より教堂内の羊の群
れや天井の金の鎖の響きな
めと美事な裝飾の中で可愛
い歌々の催の後サンタクロ
スの贈物を頒たれる筈であ
るが閉會は午後九時頃にな
るだらう

町村新報の 記者無飲

石城郡平窪村の小野田鈴木
嘉吉(三)及び加藤一(二)兩
名は此程町村新報記者と稱
して同郡湯本町字表町飲食
店小野屋専賣岡なほ方で十
三圓餘の無錢飲食をなし中
署に論議された

前歯二本を へし折る

湯本町に自
動車の事故
石城郡湯本町の笠井地先
縣道に於て去廿一日午前七
時同町高岡自動車部の佐
藤重一(二)の操縦する乗合
車と双葉郡廣野村佐藤長兵
衛方松本(三)の操縦する
術方松本(三)の操縦する
術方松本(三)の操縦する

坑夫の 落磐死

石城郡赤井村の福島炭礦坑
夫山形縣西置賜郡湯田村の
河井四五六生れ寒河江辰之
助(三)は二十二日午前十時
半頃同坑水坑右四片に於
て作業中落盤の下敷となり
苦悶し居るを同僚の吾妻文
平(三)及び阿部常義(三)が
発見救助し同礦務局の手當
を受けたが効なく絶命即日
平署の検視を受けた

行進曲 1930年

三月廿九日、廿七日獨逸で
總辭職した社會民主黨首領
ミューラー氏の後を受けて中
央黨領袖ブルウニング博士
が内閣を組織した、博士は
九時半頃五十才前後の乞食
の男が倒死し居るを前記
隔離舎番人田代金吾が発見
し出により平署の検視あつ
たが同人は重箱に入れた狐
の土隅を以て敷き同地を排
等の若手内閣が組織され
たら、總理大臣が東京驛で
ビートルに見舞はれても本
當に三週間で全治してしま
は思ひの外的好天氣と見へ
てちとのぼせ工合になつた
しばらくこたつを離れ障子
を閉けて縁端から庭のあた
りを眺めたら静かたつて居
るのびくと大分氣合がよ
いオ、垣根のあたりにはさ
なき聞える何んとい氣持
であることぞ
木兎みづくも末社の神
の頭巾かな 抱一
化形か

俳句 見れば

満莊壽主人
さなきやこたつ離れて
よい氣合 多代女
寄りの寒さに恐れて部屋
の障子も切つた、こた
つにすがりついて居た外
の頭巾かな 抱一
化形か

商校忘念會

中商業學校職員連の忘年會
は明廿五日午後五時から四
丁目マルトモホールに於て
開催されるが中島湖洲氏の
餘興がある

平商工會の 役員相談會

平商工會では廿三日午後六
時から同町マルトモホール
に於て役員相談會を開き不
景氣對策その他に就て協
議するところあつた

行進曲

三月廿九日、廿七日獨逸で
總辭職した社會民主黨首領
ミューラー氏の後を受けて中
央黨領袖ブルウニング博士
が内閣を組織した、博士は
九時半頃五十才前後の乞食
の男が倒死し居るを前記
隔離舎番人田代金吾が発見
し出により平署の検視あつ
たが同人は重箱に入れた狐
の土隅を以て敷き同地を排
等の若手内閣が組織され
たら、總理大臣が東京驛で
ビートルに見舞はれても本
當に三週間で全治してしま
は思ひの外的好天氣と見へ
てちとのぼせ工合になつた
しばらくこたつを離れ障子
を閉けて縁端から庭のあた
りを眺めたら静かたつて居
るのびくと大分氣合がよ
いオ、垣根のあたりにはさ
なき聞える何んとい氣持
であることぞ
木兎みづくも末社の神
の頭巾かな 抱一
化形か

俳句 見れば

満莊壽主人
さなきやこたつ離れて
よい氣合 多代女
寄りの寒さに恐れて部屋
の障子も切つた、こた
つにすがりついて居た外
の頭巾かな 抱一
化形か

俳句 見れば

満莊壽主人
さなきやこたつ離れて
よい氣合 多代女
寄りの寒さに恐れて部屋
の障子も切つた、こた
つにすがりついて居た外
の頭巾かな 抱一
化形か

俳句 見れば

満莊壽主人
さなきやこたつ離れて
よい氣合 多代女
寄りの寒さに恐れて部屋
の障子も切つた、こた
つにすがりついて居た外
の頭巾かな 抱一
化形か

畜力の利用

増進に就て(三)

何故に農畜産物の行詰りなる言葉を無條件に肯定し得ぬかと云へば、實際問題として我が國の農業は行詰りどころか前途洋々爲すべき仕事、爲さざるべからざる仕事が出積してゐるのである。つて將來ますます多幸多幸であることを考へねばならぬのである。

成る程如何に農業が進歩しても畜産の技術が發達しても一反歩の水から二十石も三十石もの米が穫れる様にはなるまい。單位面積から乃至は一頭の家畜から收穫し生産する處の產物には制限があつて如何に科學の進歩によつても技術の向上によつても之を無限に遞進して行くことの出来ないのは素より當然で自ら限度があるものであることは誰もが肯定する處である。

然しながら生産その事は農業上の或は畜産上の重要な仕事であるには相違ないがしかも決して其の全部ではない、即ち生産と共に有利に處分すると云ふことが又極めて重要な問題である。考へねばならぬのである。つて近來各地に於て頻りに問題となりつゝある生産物の共同處理の普及の如き成は又翻つて生産者の手に關

する手段方法に付ても如何にして其の所要の生産費を低減し得るか、換言すれば最小の経費を以て最大の利益を擧げ得るであらうかと云ふ様な點に付ては更に更に研究を要するものがあるのである。

殊に畜産に於ては家畜の利用と云ふ點に付ては將來の研究を要するものが極めて多いと思はれるのである。

平町 藤沼醫院

電話七〇五番

本院 內科 外科 小兒科 梅毒 淋病

平町 市原醫院

電話一四一番

本院 內科 外科 小兒科 梅毒 淋病

柴田書店 謝恩福引大賣出し

新年あはがき、カレンダー、文字ハガキ、クリスマスカード、かるた、トランプ

各種例年の通り豊富に取揃へました

特等	ラケット又ハ額縁	一ヶ	三本
一等	萬年筆	一本	十本
二等	ひらかなかるた	一組	三十本
三等	布製又ハセルロイド製筆入	一ヶ	二百本
四等	極厚ノート	一冊	五百本
五等	本製筆入又は筆記帳一ヶ	殘全部	

總數二千本……一本も本籤なし

平町四丁目 電話二三三四 五九七番

玉屋洋品店

平町四丁目 電話五六六番

本年最終の大廉賣

十二月廿一日より廿八日まで

お提品

三方桐筆筒	八圓より
茶箱	三圓より
火鉢	二圓より
下駄	一圓より
箱	二圓五十錢より

お正月の準備品として御宮と花籠の廉賣

其他全商品を上げて超特別の勉強

本 内はん家具店

平三丁目 電話三五九番

冬物入荷 山澤

伊関呉服店

美味経濟 山崎合名會社

表代城磐 酒銘

サロン

平町 電話三五三

七五三祝と

御歳暮御贈答品

子供服	毛シャツ	メリヤス	ワイシャツ	ネクタイ	箱入タオル	化粧石鹸	半打三十錢	カクニ石鹸	三ヶ	入三十錢
-----	------	------	-------	------	-------	------	-------	-------	----	------

ツルヤから!

平町、電話五三番

諸毒下りの大救藥

安流丸

山崎合名會社

ふゆの通學服

斷然特賣の超尖端

小學生用長ズボン付

特製	95錢ヨリ
極上品	140錢ヨリ
中學生用	
製	170錢ヨリ
極上品	250錢ヨリ

買い良き店

5丁目

モリタヤ洋品店

電話 352番